

(様式第 10)

愛医病管第 278 号  
平成 30 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

学校法人愛知医科大学  
理事長 三宅 養三 (印)

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏 名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛知医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1	電話(0561)62-3311
------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有	・	<input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      6心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科    2小児科    3整形外科    4脳神経外科    5皮膚科    6泌尿器科    7産婦人科 8産科    9婦人科    10眼科    11耳鼻咽喉科    12放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    15麻酔科    16救急科
---

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科    2                      3		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科    2リハビリテーション科    3病理診断科    4神経科    5                      6                      7
8                      9                      10                      11                      12                      13                      14
15                      16                      17                      18                      19                      20                      21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47床	床	床	床	853床	900床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	480人	160人	502.5人	看 護 補 助 者	2人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	13人	10人	14.0人	理 学 療 法 士	35人	臨床検査技師	72人
薬 剤 師	76人	4人	79.0人	作 業 療 法 士	16人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	26人	0人	26.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	962人	13人	972.0人	臨 床 工 学 士	20人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	0人
歯 科 衛 生 士	5人	0人	5.0人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	96人
管理栄養士	13人	0人	13.0人	診 療 放 射 線 技 師	62人	そ の 他 の 職 員	210人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	48人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	41人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	16人
精 神 科 専 門 医	9人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	20人	脳 神 経 外 科 専 門 医	10人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	20人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	18人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	12人
		合 計	257人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 羽生田正行 ) 任命年月日 平成26年10月1日

- ・インシデント専門委員会議長
- ・医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	744.1人	11.4人	755.5人
1日当たり平均外来患者数	2520.3人	118.7人	2639.0人
1日当たり平均調剤数	3622.6		剤
必要医師数	219人		
必要歯科医師数	8人		
必要薬剤師数	46人		
必要(准)看護師数	466人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	968.97m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	49床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 243.39m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	18床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.11m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	566.47m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置, 検体検査自動化システム			
細菌検査室	145.69m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 自動血液培養器			
病理検査室	306.63m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ライカBONDⅢ, ライカASP6025, サクラティッシュテックプリズマ			
病理解剖室	108.24m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) バイオハザード対策解剖台 臓器写真撮影装置, ホルマリン希釈装置			
研究室	6,761m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 研究用機器			
講義室	3,342m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数20室	収容定員 2,088人		
図書室	1,976m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数2室	蔵書数 94,575冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.6 %	逆紹介率	51.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数		20,846人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,761人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,145人
	D：初診の患者の数		30,518人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聰	愛知学院大学	○	法律学に関する専門知識に基づいて、教育、研究又は業務を行っている者	有・無	1
黒江幸四郎	瀬戸旭医師会		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・無	1
吉田一平	長久手市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける立場から意見を述べることができる者	有・無	2
佐藤啓二	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
岡田尚志郎	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	ホームページにて公表している。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	44
2	筋萎縮性側索硬化症	22	57	特発性拡張型心筋症	11
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	0
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	24
6	パーキンソン病	99	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	80
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	68	66	IgA 腎症	13
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	9
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	46	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靱帯骨化症	54
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	26
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	12
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
22	もやもや病	17	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	18
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	70
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	31	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	86
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	26
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1
34	神経線維腫症	12	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	17	90	網膜色素変性症	13
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	13
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	72
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	177
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	13	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	19	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	198	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	77	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	90	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	17	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	18	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	9	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	17

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	4	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算(2)
・歯科外来診療環境体制加算	・栄養サポートチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・緩和ケア診療加算
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神7対1)	・看護職員夜間配置加算
・臨床研修病院入院診療加算	・療養環境加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算(1)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算(2)
・診療録管理体制加算(2)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・精神科リエゾンチーム加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科身体合併症管理加算
・医療安全対策加算(1)	・医師事務作業補助体制加算1
・感染防止対策加算(1)	・精神科急性期医師配置加算
・感染防止対策地域連携加算	・入院時支援加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・抗菌薬適正使用支援加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
・ハイリスク分娩管理加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・退院支援加算(1) 地域連携診療計画加算	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・
・特定集中治療室管理料(2)	・
・救命救急入院料(3)(4)(充実度評価A、高度救命救急センター、小児加算)	・
・新生児特定集中治療室管理料	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料(2)	・
・救急医療管理加算	・
・無菌治療室管理加算(1)	・
・患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・透析液水質確保加算(2)
・糖尿病合併症管理料	・病理診断管理加算(2)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・口腔病理診断管理加算(2)
・がん患者指導管理料(1)	・外来緩和ケア管理料
・がん患者指導管理料(2)	・定位放射線治療
・がん患者指導管理料(3)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CAD/CAM冠
・HPV核酸検出	・乳房MRI撮影加算
・検体検査管理加算(4)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・遺伝カウンセリング加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植)(特殊なものに限る))
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図検査	・遺伝学的検査
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・神経学的検査	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・コンタクトレンズ検査料(1)	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・センチネルリンパ節生検	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術

・外来化学療法加算(1)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。
・運動器リハビリテーション料(1)	・がん患者リハビリテーション料
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・歯根端切除手術の注3
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)の初期加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・運動器リハビリテーション料(1)の初期加算	・ロービジョン検査判断料
・呼吸器リハビリテーション料(1)の初期加算	・口腔病理診断管理加算2
・医療保護入院等診療料	・保険医療機関間の連携による病理診断1
・一酸化窒素吸入療法	・検体検査国際標準検査管理加算
・歯科技工加算(1)及び(2)	・人工膵臓検査
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・人工膵臓療法
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術、脊髄刺激装置植込術及び交換術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・人工内耳植込術	・人工腎臓
・乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ペースメーカー移植術及び交換術	・皮膚移植術(死体)
・呼吸ケアチーム加算	・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(1)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・人工尿道括約筋植込・置換術	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・小児鎮静下MRI撮影加算
・認知症専門診断管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・臓器移植後患者指導管理料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術	・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
・手術用顕微鏡加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・補助人工心臓	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・同種死体腎移植術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・植込型骨導補聴器移植術及び交換術	・仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)・
・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算	・胸腔鏡下弁形成術
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・胸腔鏡下弁置換術

・胃瘻造設術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・脳波検査診断料1
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・精密触覚機能検査
・高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算	・硬膜外自家注入
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・悪性腫瘍病理標本加算
・歯科口腔リハビリテーション料(2)	・骨髄微少残存病変量
・緑内障手術(治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・導入期加算2
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腎代替療法実績加算
・経皮的冠動脈形成術	・画像診断管理加算(3)
・経皮的冠動脈ステント留置術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	
・ポジトロン断層撮影	
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	
・輸血管理料(1)・適正使用加算	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	





## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
移植腎グラフトの長期生着をめざした慢性拒絶反応に対する予防・先制医療の導入 16H05465	小林 孝彰	外科学講座 (腎移植外科)	¥4,680,000	補 委 基盤研究(B)
白血病幹細胞を保護する骨髄細動脈ニッチ:その制御機構の解明	中山 享之	中央臨床検査部	¥1,100,000	補 委 日本学術振興会
脂肪由来間葉系幹細胞を用いた造血支持療法	中山 享之	中央臨床検査部	¥1,250,000	補 委 名大橋渡し シリーズA
間葉系幹細胞を利用する新しいGVHD予防法の開発と次世代シーケンサーによる遺伝子情報に基づく新しいドナー選択法の開発に関する研究	中山 享之	中央臨床検査部	¥400,000	補 委 AMED 名大村田班
輸血医療におけるトレーサビリティ確保に関する研究	中山 享之	中央臨床検査部	¥0	補 委 厚生労働行政 推進調査事業 費浜口班
輸血医療におけるトレーサビリティ確保に関する研究	加藤 栄史	輸血部	¥100,000	補 委 厚生労働行政 推進調査事業 費浜口班
ICTを活用した血液の需要や適正使用の向上に関する研究	加藤 栄史	輸血部	¥0	補 委 AME 大阪班
更なる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究	加藤 栄史	輸血部	¥0	補 委 AMED 松下班
シュワン細胞の神経終末誘引・保護作用の糖尿病多発神経障害に対する有益性の検討	中村 二郎	糖尿病内科	¥780,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
体性幹細胞とその分泌因子を用いた世界初の糖尿病性神経障害治療法の開発	神谷 英紀	糖尿病内科	¥1,820,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病における歯髄幹細胞を利用した膵島移植の向上	恒川 新	糖尿病内科	¥1,820,000	補 委 独立行政法人 日本学術振興会
高解像度アレイCGH法によるエナメル上皮腫のゲノム診断及び分子標的薬の開発	風岡 宜暁	歯科口腔外科	¥900,000	補 委 厚生労働科学 研究費助成事 業学術研究助 成基金
CDDP,ATO 併用による口腔癌抗腫瘍効果の分子基	大野 隆之	歯科口腔外科	¥1,100,000	補 厚生労働科学 研究費助成事

盤解析及び効率的化学療法 法の開発	八木 隆之	内科呼吸内科	¥1,100,000	委	業学術研究助 成基金
閉塞性睡眠時無呼吸にお ける新たなスクリーニング 検査法の開発	古橋 明文	歯科口腔外科	¥600,000	補 委	厚生労働科学 研究費助成事 業学術研究助 成基金
脳水チャンネルアクアポリン のRNAi機能調節による脳 浮腫抑制の臨床応用	藤田 義人	麻酔科学講座	¥1,430,000	補 委	基金
消化管運動障害でのアス トロサイトを介する腸管神 経系制御機構の役割と麻 酔薬作用	橋本 篤	麻酔科学講座	¥1,690,000	補 委	基金
局所麻酔薬の神経細胞毒 性においてT型カルシウム チャンネルが果たす役割の 解明	藤原 祥裕	麻酔科学講座	¥2,340,000	補 委	基金
子宮内膜症女性の心血管 疾患発症予防のための新 しいホルモン療法の開発	若槻 明彦	産婦人科	¥1,430,000	補 委	日本学術振興会
若年女性のスポーツ障害 の解析とその予防と治療 (分担開発課題名)女性ア スリートの指導における問 題解決への提言と管理マ ニュアル開発	若槻 明彦	産婦人科	¥700,000	補 委	国立研究開発 法人日本医療 研究開発機構
妊娠中の重篤な脳血管、 心疾患系合併症と妊娠高 血圧症候群の関連、予知 に関する研究—妊娠高血 圧症候群早期発見のため の家庭血圧有用性につい て	渡辺 員支	周産期母子医療センター	¥500,000	補 委	国立循環器病セ ンター

骨強度評価を用いた癌骨 関連有害事象発生リスク 予測法の確立—有限要素 解析の応用—	若尾 典充	脊椎脊髄センター(整 形外科)	¥1,300,000	補 委	JSPS
慢性の痛み診療・教育の 基盤となるシステム構築に 関する研究	牛田 享宏	学際的痛みセンター	¥50,000,000	補 委	厚生労働行政 推進調査事業費
感覚過敏に対する新しい 治療法の開発	西原 真理	学際的痛みセンター	¥4,680,000	補 委	科研基盤研究C
聴覚コミュニケーション障 害からみた高齢者・障害 者・認知症ケアの在り方に 関する検討(26502016)	内田 育恵	耳鼻咽喉科学	¥700,000	補 委	日本学術振興会
腎疾患領域におけるリンパ 管新生の観点からの病態 解明とその治療戦略	伊藤 恭彦	腎臓・リウマチ 膠原病内科	¥1,690,000	補 委	科研費
生体内の異物・不要物排 除機構の解明とその制御 による疾患治療	伊藤 恭彦	腎臓・リウマチ 膠原病内科	¥3,000,000	補 委	AMED CREST
腹膜透析に伴う被嚢性腹 膜硬化症の病因と病理学 的予知因子の検討	伊藤 恭彦	腎臓・リウマチ 膠原病内科	¥1,500,000	補 委	日本透析医会
腹膜リンパ管新生における CTGFの役割	鬼無 洋	腎臓・リウマチ 膠原病内科	¥1,430,000	補 委	科研費

卵膜由来間葉系幹細胞を用いた腎疾患治療	勝野 敬之	腎臓・リウマチ 膠原病内科	¥1,250,000	補 委	科研費
パターン認識受容体 PTX3 を分子標的とする川 崎病新規治療法の開発	三嶋 廣繁	感染症科	¥100,000	補 委	日本学術振興会
性感染症に関する特定感 染症予防指針に基づく対 策の推進に関する研究	三嶋 廣繁	感染症科	¥150,000	補 委	厚生労働省
医療機関等における薬剤 耐性菌の感染制御に関する研究	三嶋 廣繁	感染症科	¥400,000	補 委	厚生労働省
真菌感染症の病態解明及 び検査・治療法の確立に 関する研究	三嶋 廣繁	感染症科	¥600,000	補 委	長崎大学 (AMED)
肺胞蛋白症診療に直結す るエビデンス創出研究:重 症難治例の診断治療管理	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥200,000	補 委	新潟大学
自己免疫性肺胞蛋白症に 対する酵母由来組換え GM-CSF吸入の多施設共 同医師主導治験	山口 悦郎	呼吸器・アレルギー内科	¥4,974,999	補 委	近畿中央胸部 疾患センター
ゲノムワイド解析による進 行肺がんの治癒実現へ向 けた基盤研究	久保 昭仁	呼吸器・アレルギー内科	¥2,080,000	補 委	科研費 基盤C(代表)

基質硬度に起因する肺および気道リモデリング制御機構と細胞基質力学検知機構の解明	伊藤 理	呼吸器・アレルギー内科	¥1,820,000	補 委	科研費 基盤C(代表)
治療標的検索のための肺がん細胞におけるメカニカルストレスの解析	伊藤 理	呼吸器・アレルギー内科	¥130,000	補 委	科研費 基盤C(分担)
効果検証例の実績とそれに基づく実証試験方法の確立(実証試験基準の開発)および今後開発すべきロボット介護機器に関する調査	木村 伸也	リハビリテーション科	¥114,294,226	補 委	国立研究法人 産業技術総合 研究所
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	米田 政志	肝胆膵内科	¥1,000,000	補 委	日本医療研究開 発機構研究費
職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究	米田 政志	肝胆膵内科	¥300,000	補 委	日本医療研究開 発機構研究費
胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御	伊藤 清頭	肝胆膵内科	¥10,000,000	補 委	AMED
B型肝炎における遺伝子型分布の変遷および分子生物学的検討	伊藤 清頭	肝胆膵内科	¥1,560,000	補 委	科学研究費助 成事業(日本学 術振興会)
B型肝炎における遺伝子型分布の変遷および分子生物学的検討	伊藤 清頭	肝胆膵内科	¥1,000,000	補 委	一般財団法人 日本消化器病 学会

迷走神経に着目した NASH病態の解明と治療 応用	中出 幸臣	肝胆膵内科	¥1,690,000	<input checked="" type="radio"/> 補 委	基盤研究(C)
				補 委	

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。













計 45件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takahashi Y, Kakizaki H	眼形成・眼窩・涙道外科	A Modified Bifurcated Periosteal Flap for Simultaneous Reconstruction of Upper and Lower Lateral Canthal Tendons.	J Craniofac Surg 2017; 28(4): 1093-5.	Original Article
2	Takahashi Y, Sabundayo MS, Miyazaki H, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Incarceration of the inferior oblique muscle branch of the oculomotor nerve in patients with orbital floor trapdoor fracture.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2017; 255(10): 2059-65	Original Article
3	Takahashi Y, Sabundayo MS, Mito H, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Bell's phenomenon in thyroid-associated inferior rectus myopathy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2017; 255(12): 2467-71	Original Article
4	Takahashi Y, Takahashi E, Nishimura K, et al	眼形成・眼窩・涙道外科	Immunoglobulin G4-related dacryocystitis.	Can J Ophthalmol 2017; 52(5): e188-90.	Case report
5	Ishikawa E, Sabundayo MS, Takahashi Y, et al	眼形成・眼窩・涙道外科	Lacrimal Caruncle Nevus with Papilloma.	Case Rep Ophthalmol 2017; 8(3) 535-8.	Case report
6	Kitaguchi Y, Mupas-Uy J, Takahashi Y, et al	眼形成・眼窩・涙道外科	Lagophthalmos caused by cicatricial adhesion of orbital adipose tissue to orbital roof: A case report.	Am J Ophthalmol Case Rep 2018; 9: 99-102.	Case report
7	Kitaguchi Y, Sabundayo MS, Kakizaki H	眼形成・眼窩・涙道外科	Eyelid Myokymia with Concomitant Cerebral Tumour: A Case Report.	Neuroophthalmology 2017;42(3): 150-2.	Case report
8	姫野 龍仁	糖尿病内科	Is rebenerative medicine ready for prime time in diabetic polyneuropathy?	Curr Diab Rep.2018 Jan (オンライン)	Review

9	Ohashi A, Kato S, Okamoto A, et al	病理診断科	Reappraisal of Epstein-Barr virus (EBV) in diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL): comparative analysis between EBV-positive and EBV-negative DLBCL with EBV-positive bystander cells.	Histopathology. 2017 Jul;71(1):89-97.	Original Article
10	Matsuyama K, Watanuki H, Sugiyama K, et al	心臓外科	A modified closure technique for postinfarction ventricular septal defect via a right ventricular incision.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2018 Mar 1;26(3):512-513	Original Article
11	Takumi Saito	歯科口腔外科	Lidocaine Prevents Oxidative Stress-Induced Endothelial Dysfunction of the Systemic Artery in Rats With Intermittent Periodontal Inflammation.	Anesthesia and Analgesia, 124(6), 2054-2062, 2017	Original Article
12	Mayako Nishio-Nagai	歯科口腔外科	Adoptive immunotherapy combined with FP treatment for head and neck cancer: An in vitro study.	INTERNATIONAL JOURNAL OF ONCOLOGY, 51, 1471-1481, 2017	Original Article
13	Masatoshi Okumura, Ujiro Atsushi, Otsuka	麻酔科	Cardiac arrest caused by rapidly increasing ascites in a patient with TAFRO syndrome: a case report	Acute Medicine & Surgery. 2017 Apr; 4: 344-8	Case report
14	Yasunori Miyamoto, Guo-Gang Feng, Shiho Satomi 他	麻酔科	Phosphatidylinositol 3-kinase inhibition induces vasodilator effect of sevoflurane via reduction of Rho kinase activity	Life Sciences. 2017 May; 177: 20-6	Original Article
15	Yoshihito Fujita, Saya Yoshizawa, Maiko Hoshika 他	麻酔科	Effect of different surgical procedures on the accuracy of prediction of the plasma concentration of fentanyl: comparison between mastectomy and laparoscopic prostatectomy	JA Clinical Reports. 2017 May (オンライン)	Original Article
16	Hiroyuki Kinoshita	麻酔科	Does memory consolidation by anesthetics relate to a time window of age?	Anesthesia & Analgesia. 2017 Jul; 125: 357	Letter

17	Hiroyuki Kinoshita, Kazushi Watanabe, Toshiharu Azma 他	麻酔科	Human serum albumin and oxidative stress in preeclamptic women and the mechanism of albumin for stress reduction	Heliyon. 2017 Aug (オンライン)	Original Article
18	Hiroyuki Kinoshita, Takahiko Akahori, Emi Nakamura 他	麻酔科	Tissue oxygenation index reflects changes in forearm blood flow after brief ischemia	The Journal of Medical Investigation. 2017 Sept; 64: 228-32	Original Article
19	Matsushita H, Minami A, Kanazawa H, et al	産婦人科	Long-term supplementation with young coconut juice does not prevent bone loss but rather alleviates body weight gain in ovariectomized rats.	Biomed Rep. 2017 Feb; 6:585-91	Original Article
20	Ueno T, Yabushita H, Iwasaki K, et al	産婦人科	Role of adiponectin and leptin in non-diabetic, non-obese patients with endometrial cancer	Eur J Gynaecol Oncol. 2018 Feb;39:199-204	Original Article
21	Shimizu S, Matsushita H, Morii Y, et al	産婦人科	Effect of anthocyanin-rich bilberry extract on bone metabolism in ovariectomized rats	Biomed Rep.2018 Feb; 8: 198-204	Original Article
22	石橋宏之	血管外科	What is vascular Behcet's disease?	Annals of Vascular Disease 11(1): 2018; p52-56	Original Article
23	Kojiro Suzuki, Tomoki Ebata, Tomohiro Komada, et al	放射線科	Portal Vein Bleeding after Pancreatectomy: Diagnosis and Stent Graft Repair – A Consecutive Case Series	JOP.J Pancreas 2017 Jul(オンライン)	Original Article
24	Shuji Ikeda, Makiyo Hagihara, Akira Kitagawa, et al.	放射線科	Renal dysfunction after abdominal or thoracic endovascular aortic aneurysm repair: incidence and risk factors	Jpn J Radiol. 2017 Oct; 35:562-567.	Original Article
25	Muramatsu Y et al	整形外科	Pulsed Electromagnetic Field Stimulation Promotes Anti-cell Proliferative Activity in Doxorubicin-treated Mouse Osteosarcoma Cells.	In Vivo 2017 Jan; 31:61-8	Original Article



26	Matsuo T et al	整形外科	Inhibitory effects of low-intensity pulsed ultrasound sonication on the proliferation of osteosarcoma cells.	Oncol Lett 2017 Sep; 14:3071-6	Original Article
27	Tsujimoto T et al	整形外科	Effects of regular water- and land-based exercise on physical function after 5 years: A long-term study on the well-being of older	Geriatr Gerontol Int 2017 Nov; 17:2116-23	Original Article
28	城 由起子	痛みセンター	Physical Activity May Be Associated with Conditioned Pain Modulation in Women but Not Men among Healthy Individuals.	Pain Res Manag. 2017;2017:9059140.	Original Article
29	井上 真輔	痛みセンター	The prevalence and impact of chronic neuropathic pain on daily and social life: A nationwide study in a Japanese population.	Eur J Pain. 2017;21(4):727-737.	Original Article
30	井上 真輔	痛みセンター	Prevalence, characteristics, and burden of failed back surgery syndrome: the influence of various residual symptoms on patient satisfaction and quality of life as assessed by a nationwide Internet survey in Japan.	J Pain Res. 2017;10:811-823.	Original Article
31	井上 雅之	痛みセンター	Analysis of follow-up data from an outpatient pain management program for refractory chronic pain.	J Orthop Sci. 2017;22(6):1132-1137.	Original Article
32	辻本 朋哉	整形外科	Effects of regular water- and land-based exercise on physical function after 5 years: A long-term study on the well-being of older Japanese adults.	Geriatr Gerontol Int. 2017 Nov;17(11):2116-2123.	Original Article
33	林 和寛	痛みセンター	Discordant Relationship Between Evaluation of Facial Expression and Subjective Pain Rating Due to the Low Pain Magnitude.	Basic Clin Neurosci. 2018;9(1):43-50.	Original Article

34	竹内 伸行	精神神経科	New paradigm for auditory paired pulse suppression.	PLoS One. 2017;12(5):e0177747.	Original Article
35	新井 健一	痛みセンター	Observational Study of the Association Between Tongue Exam and the Kampo Diagnostic Procedure of Fuku Shin (Abdominal Exam) in Blood Stasis.	J Evid Based Complementary Altern Med. 2017 Oct;22(4):879-882.	Original Article
36	城 由起子	痛みセンター	Stool consistency is significantly associated with pain perception.	PLoS One. 2017;12(8):e0182859.	Original Article
37	西村邦宏	耳鼻咽喉科	T. Advanced surgical technique for invasive fungal sinusitis:endoscopic orbit-sinus combined approach	Minim Invasive Ther Allied Technol 26;5:307-13 2017	Original Article
38	堀部裕一郎	耳鼻咽喉科	Efficacy of the red blood cell distribution width for predicting the prognosis of Bell palsy:a pilot study	Eur Arch Otorhinolaryngol 274;5:2303-6 2017	Original Article
39	Yano M, Numanami H, Yamaji M, et al.	呼吸器外科	A pitfall of thoracoscopic thymectomy: a case with intraoperative and postoperative complications.	Surg Case Rep. 2017 Sep; 3(1):99	Original Article
40	Yano M, Okuda K, Kawano O, et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic Thymectomy with Tangential Partial Resection of the Innominate Vein.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Aug;23(4):207-10	Original Article
41	Yamaji M, Ota A, Wahiduzzaman M, et al.	呼吸器外科	Novel ATP-competitive Akt inhibitor afuresertib suppresses the proliferation of malignant pleural mesothelioma cells.	Cancer Med. 2017 Nov;6(11):2646-59	Original Article
42	Fujii K, Watanabe R, Ando T, et al.	乳腺・内分泌外科	Alterations in three biomarkers (estrogen receptor, progesterone receptor and human epidermal growth factor 2) and the Ki67 index between primary and metastatic breast cancer lesions.	Biomed Rep. 2017 Dec ; 7(6):535-42	Original Article
43	Watanabe R, Ando T, Osawa M, et al.	乳腺・内分泌外科	Second-look US Using Real-time Virtual Sonography, a Coordinated Breast US and MRI System with Electromagnetic Tracking Technology: A Pilot Study.	Ultrasound Med Biol. 2017 Oct;43(10):2362-71	Original Article

44	Kogenta Nakamura; Kazuro Ikawa; Genya Nishikawa; et al	泌尿器科	Clinical pharmacokinetics and pharmacodynamic target attainment of pazufloxacin in prostate tissue:Dosing considerations for prostatitis	Journal of Infection and Chemotherapy; 2017 Oct.; 23; 809-13	Original Article
45	Kogenta Nakamura; Hiroshi Saiki; Hiroyuki Muramatsu; et al	泌尿器科	Axitinib-induced reversible posterior leukoencephalopathy syndrome in a patient with renal cell carcinoma	International Cancer Conference Journal; 2017 Aug.(オンライン)	Case report
46	Niwa T	循環器内科	Predictability of tricuspid annular plane systolic excursion for the effectiveness of tolvaptan in patients with heart failure.	J Echocardiogr. 2017 Sep;15(3):118-126	
47	Ando H	循環器内科	Impact of lesion characteristics on the prediction of optimal poststent fractional flow reserve.	Am Heart J. 2016 Dec;182:119-124	
48	Ando H	循環器内科	Tissue characteristics of neointima in late restenosis: integrated backscatter intravascular ultrasound analysis for in-stent restenosis.	Heart Vessels. 2017 May;32(5):531-538	
49	Amano T	循環器内科	Prognostic impact of cardiac troponin T in patients with stable coronary artery disease and diabetes.	J Diabetes Investig. 2016 Jul;7(4):468-9	
50	Nakade Y, Sakamoto K, Yamauchi T et al	肝胆膵内科	Conophylline inhibits non-alcoholic steatohepatitis in mice	PLoS One:e0178436 12(6) 2017年6月	Original Article
51	Kanamori H, Nakade Y, Yamauchi T et al	麻酔科	Influence of nicotine on choline-deficient, L-amino acid-defined diet-induced non-alcoholic steatohepatitis in rats	PLoS One: e0180475. 12(6) 2017年6月	Original Article
52	Tsuboi K,Ishida Y,Kamei M.	眼科	Gap in Capillary Perfusion on Optical Coherence Tomography Angiography Associated With Persistent Macular Edema in Branch Retinal Vein Occlusion.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2017 Apr 1;58(4):2038-2043.	
53	Shiraki N, Sakimoto S, Sakaguchi H, Nishida K, Nishida K, Kamei M.	眼科	Vitrectomy without prone positioning for rhegmatogenous retinal detachments in eyes with inferior retinal breaks.	PLoS One. 2018 Jan 26;13(1):e0191531.	

54	3. Kataoka T, Kamei M.	眼科	SILICONE MICROTUBE- ASSISTED SCLERAL FIXATION OF A POSTERIOR CHAMBER INTRAOCULAR LENS.	Retina. 2018 Mar 20. doi: 10.1097	
55	4. Hasegawa M, Fukutomi A, Jinno A, Fujita K, Kamei M.	眼科	Unusual Case of Vogt- Koyanagi-Harada Disease Associated with SAPHO Syndrome: A Case Report.	Ophthalmol .2018 Mar 29;9(1):202-208	
56	5. Sasajima H, Tsuboi K, Ono H, Murotani K, Kamei M.	眼科	A Randomized Trial of a Short 34-Gauge Needle for Intravitreal Injections.	Ophthalmology. 2018 Jun;125(6):947-948.	
57	Koji Osuka, Yasuo Watanabe, Nobuteru Usuda, et. al.	脳神経外科	Inhibitory mechanism of the outer membrane growth of chronic subdural hematomas.	J Neurotrauma 34:1996-2000, 2017	Original Article
58	Koji Osuka, Yasuo Watanabe, Nobuteru Usuda, et. al.	脳神経外科	Activation of nuclear factor- kappa B in endothelial cells of chronic subdural hematoma outer membrane.	Neurosurgery 80:571-578, 2017	Original Article
59	Koji Osuka, Yasuo Watanabe, Nobuteru Usuda, et. al.	脳神経外科	Expression of caspase signaling components in the outer membranes of chronic subdural hematomas.	J Neurotrauma 34:3192-3197, 2017	Original Article
60	Isaji T, Yasuda M, Kawaguchi R, et. al.	脳神経外科	Posterior inferior cerebellar artery with an extradural origin from the V(3) segment: higher incidence on the nondominant vertebral artery.	J Neurosurg Spine Dec1: 1-6, 2017	Original Article
61	M Takeuchi, K Osuka, M Takayasu, et. al.	脳神経外科	Ultrasonography has a diagnostic value in the assessment of cervical radiculopathy: A prospective pilot study.	Eur Radiol. 2017; 27 3467-3473	Original Article
62	Iwami K, Fuji M, Saito K.	脳神経外科	Occipital transtentorial/falcine approach, a "cross-court" trajectory to accessing contralateral posterior thalamic lesions	J Neurosurg. 2017 Jul;127(1):165-170.	Case report

63	Miyachi S, Ohnishi H, Hiramatsu R, et al.	脳血管内治療センター	Innovations in Endovascular Treatment Strategies for Large Carotid Cavernous Aneurysms–The Safety and Efficacy of a Flow Diverter.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 26:1071–1080, 2017	Original Article
64	Miyachi S, Izumi T, Satow T, et al.	脳血管内治療センター	Effectiveness of Preradiosurgical Embolization with NBCA for Arteriovenous Malformations – Retrospective Outcome Analysis in a Japanese Registry of 73 Patients (J-REAL study).	Neurointervention. 12:100–109, 2017	Original Article
65	Miyachi S, Hiramatsu R, Ohnishi H, et al.	脳血管内治療センター	Usefulness of the Pipeline embolic device for large and giant carotid cavernous aneurysms	Neurointervention 12: 83–90, 2017	Original Article
66	Asai N	感染症科	Could qSOFA and SOFA score be correctly estimating the severity of healthcare-associated pneumonia?	J Infect Chemother. 2018 Mar;24(3):228–231.	Original Article
67	Mikamo H	感染症科、感染制御部、臨床感染症学	High glucose-mediated overexpression of ICAM-1 in human vaginal epithelial cells increases adhesion of <i>Candida albicans</i> .	J Obstet Gynaecol. 2018 Feb;38(2):226–230.	Original Article
68	Yamagishi Y	感染症科、感染制御部、臨床感染症学	Proposed Pharmacokinetic–Pharmacodynamic Breakpoint of Garenoxacin and Other Quinolones.	Jpn J Infect Dis. 2017 Nov 22;70(6):616–620.	Original Article
69	Asai N	感染症科	Secondary organizing pneumonia following viral pneumonia caused by severe influenza B: a case report and literature reviews.	BMC Infect Dis. 2017 Aug 15;17(1):572.	Original Article
70	Asai N	感染症科	The etiology and bacteriology of healthcare-associated empyema are quite different from those of community-acquired empyema.	J Infect Chemother. 2017 Oct;23(10):661–667.	Original Article
71	Yamagishi Y	感染症科、感染制御部、臨床感染症学	Antimicrobial activity of fidaxomicin against <i>Clostridium difficile</i> clinical isolates in Aichi area in Japan.	J Infect Chemother. 2017 Oct;23(10):724–726	Original Article

72	Sakanashi D	感染制御部、臨床感染症学	Evaluation of commercial phenotypic assays for the detection of IMP- or New Delhi metallo- $\beta$ -lactamase-producing Enterobacteriaceae isolates in Japan.	J Infect Chemother. 2017 Jul;23(7):474-480	Original Article
73	Yamagishi Y	感染症科、感染制御部、臨床感染症学	Efficacy of tedizolid against methicillin-resistant Staphylococcus aureus and Peptostreptococcus anaerobius in thigh mixed-infection mouse model.	J Infect Chemother. 2017 Jun;23(6):368-373.	Original Article
74	Hirai J	感染症科	The first human clinical case of chronic osteomyelitis caused by Clostridium hydrogeniformans.	Anaerobe. 2017 Jun;45:138-141.	Original Article
75	Yasushi Funaki	消化管内科	Impact of Comorbid Irritable Bowel Syndrome on Treatment Outcome in Non-Erosive Reflux Disease on Long-Term Proton Pump Inhibitor in Japan	Digestion 2017;96:39-45	Original Article
76	Naotaka Ogasawara	消化管内科	A case of colonic stenosis caused by cold snare polypectomy for the removal of a colonic polyp	Clin J Gastroenterol 10(5):415-419	Case report
77	Shimozato Akinori	消化管内科	Transglucosidase improves the bowel movements in type 2 diabetes mellitus patients: A preliminary randomized double-blind, placebo-controlled study.	United European Gastroenterol J. 2017 Oct;5(6):898-907	Original Article
78	Masahide Ebi	消化管内科	A gastric glomus tumor resected using non-exposed endoscopic wall-inversion surgery	Clin J Gastroenterol 2017 Dec;10(6):508-513	Case report
79	Shimozato Akinori	消化管内科	Risk Factors for Delayed Ulcer Healing after Endoscopic Submucosal Dissection of Gastric Neoplasms	J Gastrointestin Liver Dis 2017 Dec;26(4):363-368	Original Article
80	Masahide Ebi	消化管内科	A Small Bowel Ulcer due to Clopidogrel with Cytomegalovirus Enteritis Diagnosed by Capsule and Double-Balloon Endoscopy.	Case Rep Gastroenterol. 2018 Jun 18;12(2):303-310.	Case report

81	Iwasaki K, Miwa Y, Haneda M, et al	腎疾患移植免疫学寄附講座	Negative Regulation of HLA-DR Expression on Endothelial Cells by Anti-A/B Antibody Ligation and mTOR Inhibition	Transplant Immunology 2017, 40: 22-30	Original Article
82	Iwasaki K, Kitahata N, Hiramitsu T, et al	腎疾患移植免疫学寄附講座	CD40L expression level as a biomarker for predicting calcineurin inhibitor sensitivity against follicular helper T-cell-mediated B-cell activation/antibody production after kidney	International Immunology 2018, 30: 345-355	Original Article
83	Nishimura M, Yamaguchi E, Takahashi A et al.	呼吸器・アレルギー内科	Clinical significance of serum anti-GM-CSF autoantibody levels in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.	Biomark Med. 2018 Feb;12(2):151-9	Original Article
84	Yokoe N, Katsuda E, Kosaka K et al.	呼吸器・アレルギー内科	Interstitial Lung Disease after Pleurodesis for Malignant Pleural Effusion.	Intern Med. 2017Jul; 56(14): 1791-1797.	Original Article
85	Kubo A, Soora, Ando M	呼吸器・アレルギー内科	Association Between Environmental Tobacco Smoke Exposure and the Occurrence of EGFR Mutations and ALK Rearrangements in Never-smokers With Non-Small-	Clin Lung Cancer. 2017Sep; 18(5): 535-42.	Original Article
86	Kiyoaki Ito, Masashi Yoneda, Kazumasa Sakamoto et al.	肝胆膵内科	Virological and Clinical Characteristics of Hepatitis B Virus Genotype A.	J Gastroenterol. 2018 Jan;53(1):18-26.	Review
87	Kiyoaki Ito, Kenta Murotani, Yukiomi Nakade et al.	肝胆膵内科	Serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2-binding protein levels and liver fibrosis: A meta-analysis.	J Gastroenterol Hepatol. 2017 Dec;32(12):1922-1930	Original Article
88	Nakade Y, Sakamoto K, Yamauchi T et al.	肝胆膵内科	Conophylline inhibits non-alcoholic steatohepatitis in mice.	PloS one 2017;12: e0178436.	Original Article
89	Nakade Y, Ozeki T, Kanamori H et al.	肝胆膵内科	A Case of Gastric Antral Vascular Ectasia Which Was Aggravated by Acid Reducer.	Case Rep Gastroenterol 2017;11: 64-71.	Case report
90	Nakade Y, Murotani K, Inoue T et al.	肝胆膵内科	Ezetimibe for the treatment of non-alcoholic fatty liver disease: A meta-analysis.	Hepatol Res 2017;47: 1417-28.	Original Article

91	Inoue T, Ishii N, Kobayashi Y, et al.	肝胆膵内科	Successful retrieval of an immovable pancreatic stent using a novel thin-tipped balloon catheter.	Endoscopy. 2017 Jun; 49: E157-9	Case report
92	Inoue T, Ishii N, Kobayashi Y, et al.	肝胆膵内科	Simultaneous Versus Sequential Side-by-Side Bilateral Metal Stent Placement for Malignant Hilar Biliary Obstructions.	Dig Dis Sci. 2017 Sep; 62: 2542-9	Original Article
93	Inoue T, Kitano R, Kobayashi Y, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic removal of a proximally migrated biliary stent using a novel gooseneck snare: the "EndoCowboy".	Endoscopy. 2017 Dec; 49: E321-2.	Case report
94	Maeda K, Koga T, Akagi J	緩和ケアセンター	Nutritional variables predict chances of returning home and activities of daily living in post-acute geriatric care	Clinical interventions in aging 13 151-157 2018 Jan 26	Original Article
95	Maeda K, Koga T, Akagi J	緩和ケアセンター	Interferential current sensory stimulation, through the neck skin, improves airway defense and oral nutrition intake in patients with dysphagia: a double-blind randomized controlled trial	Clinical interventions in aging 12 1879-1886 2017 Nov	Original Article
96	Maeda K, Wakabayashi H, Shamoto H, et	緩和ケアセンター	Cognitive impairment has no impact on hospital-associated dysphagia in aspiration pneumonia patients	Geriatrics & gerontology international 18(2) 233-239 2017年9月	Original Article
97	Maeda K, Shamoto H, Furuya S	緩和ケアセンター	Feeding Support Team for Frail, Disabled, or Elderly People during the Early Phase of a Disaster	Tohoku J Exp Med 242(4) 259-261 2017年8月	Original Article
98	森田博之	内分泌・代謝内科	A modified disease concept of Alport Syndrome (AS) and related disorders may soon be developed- Can a case report contribute toward the development?	Annals of Clinical Case Reports 2017; 2: 1273-1274	Case report



99	伊藤竜男	内分泌・代謝内科	The differential diagnosis of central diabetes insipidus by Arginine-vasopressin measurement using high-sensitivity radioimmunoassay.	J. Aichi Med Univ. Assoc. 2017;45(4):33-40	Original Article
～					

計99件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	武山直志	救命救急科	緊急麻酔法	今日の治療指針 私はこう治療している、H28	Review
2	武山直志	救命救急科	電解質異常	ジェネラリストのための外来初療処置ガイド、H28	Review
3	武山直志	救命救急科	顔面頸部外傷	1336専門家による私の治療、H30	Review
4	仲上祐也	中央臨床検査部	血漿FDP・Dダイマー新規測定試薬の基礎的検討	日本臨床検査自動化学会誌 2017 ; Vol.42 :	Original Article
5	鈴木崇峰	中央臨床検査部	多項目自動血球分析装置XN-9000によるEDTA依存性血小板凝集の検出.	日本検査血液学会雑誌 2017 ; 18 : 385-393	Original Article
6	仲上麻友	中央臨床検査部	当院採血・採尿センターの運用について.	日本臨床検査自動化学会誌 2017 ; Vol.42 :	Original Article
7	加藤栄史	輸血部	ABO亜型検査におけるフローサイトメトリー法の有用性	Cytometry Research. 2017 Nov; 27: 25-29.	Review
8	岩越 朱里, 大橋 明子, 高橋 恵美子	病理診断科	精巣胚細胞腫瘍の新しい概念	腎臓内科・泌尿器科 (2188-9147)7巻3号 Page327-334(2018.03)	Review
9	佐藤 啓, 都 築 豊徳	病理診断科	精巣原発悪性リンパ腫	腎臓内科・泌尿器科 (2188-9147)7巻3号 Page293-299(2018.03)	Review
10	都築 豊徳, 高橋 恵美子, 大橋 明子	病理診断科	【病理診断の新潮流】尿路上皮がんの分子生物学的分類	腎臓内科・泌尿器科 (2188-9147)7巻3号 Page242-248(2018.03)	Review
11	都築 豊徳, 高橋 恵美子, 大橋 明子	病理診断科	病理学 パリシステム はじめての国際的尿細胞診報告様式	医学のあゆみ (0039-2359)265巻2号 Page158-159(2018.04)	Review
12	都築豊徳	病理診断科	【新腎・泌尿器癌(下)-基礎・臨床研究の進歩-】膀胱癌 膀胱癌の検査・診断 膀胱癌の診断病理診断 2016WHO分類に基づく膀胱腫瘍の病理組織学的分類	日本臨床 (0047-1852)75巻増刊7 新腎・泌尿器癌(下) Page147-154(2017.10)	Review
13	岩越 朱里, 露木 琢司, 高原 大志,	病理診断科	【胚細胞腫瘍】WHO 2016分類に基づく精巣胚細胞腫瘍の組織分類	病理と臨床 (0287-3745)35巻12号 Page1107-1116(2017.12)	Review
14	高原 大志, 露木 琢司, 岩越 朱里	病理診断科	【尿路上皮腫瘍:変わりつつある概念】尿膜管癌	病理と臨床 (0287-3745)35巻9号 Page841-845(2017.09)	Review

15	都築 豊徳	病理診断科	各種最新診断法がもたらす前立腺がん診療体系の変革 新しいグリーソンスコア分類と分子生物学的アプローチ	泌尿器外科 (0914-6180)30 巻8号 Page1329-1331(2017.08)	Review
16	高原 大志, 都築 豊徳	病理診断科	【病理診断に直結した組織学】泌尿・男性生殖器 尿路(腎盂、尿管、膀胱、尿道、陰茎)	病理と臨床 (0287-3745)35 巻臨増 Page286-293(2017.04)	Review
17	杉山佳代	愛知医科大学	重症心不全を伴ったマルファン症候群に対する部分体外循環補助下胸部下行大動脈置換術および腹部大動脈置換術	日本心臓血管外科学会雑誌 2018.47:71-77	Case report
18	藤原祥裕	麻酔科学講座	病院経営からみた麻酔科医収益性以外にも、周術期医療サービスで果たすべき役割がある	LiSA. 2017Aug; 24: 724-7	Others
19	藤原祥裕	麻酔科学講座	専門医制度と周術期管理チーム 愛知医科大学病院における周術期診療看護師の現状と問題点	日本臨床麻酔学会誌. 2017 Nov; 37: 844-51	Review
20	橋本篤	麻酔科学講座	超音波ガイド下神経ブロックの進歩 -仙骨神経叢～坐骨神経ブロック-	日本臨床麻酔学会誌. 2018 Jan; 38: 119-22	Others
21	奥村将年	麻酔科学講座	敗血症の診断から治療開始までの時間と予後	ICCとCCU. 2018 Feb; 42: 107-15	Review
22	篠原康一	産婦人科	更年期女性に対するエストロゲン製剤の役割 安全性・有効性・付加価値から考えるエストロゲンの肝臓への作用	日本女性医学学会雑誌 2017 Apr;24:302-4	Others
23	篠原康一	産婦人科	思春期子宮内膜症をめぐる諸問題 長期管理を見据えて血管内皮の観点から	日本エンドメトリオーシス学会会誌 2017 Jul; 38: 52-4	Others
24	篠原康一	産婦人科	専攻医が知っておきたい更年期女性に対するHRT 最近の知見を踏まえて	東海産科婦人科学会雑誌 2018 Mar;54:17-20	Others
25	阿部壮一郎	放射線科	選択的海綿静脈洞サンプリングが有用ACTH産生下垂体微小腺腫の1例	映像情報メディカル 2017 Jun; 49:4-7.	Case report
26	北川晃	放射線科	四肢動静脈奇形に対する血管内治療	脈管学 2017 Nov; 57:163-168	Review
27	佐藤純	痛みセンター	【CRPSの最新事情】CRPSと自律神経 過去と現在	ペインクリニック 2017;38(4):444-8.	Review
28	西原真理	痛みセンター	【脊椎・脊髄疾患のニューロサイエンス 神経所見の診かたから再生医療まで】脊椎・脊髄疾患と鑑別すべき神経・精神疾患 精神・心理的疾患 身体症状症	整形・災害外科 2017;60(5):591-6.	Review

29	池本竜則	痛みセンター	【脊椎・脊髄疾患のニューロサイエンス 神経所見の診かたから再生医療まで】脊椎・脊髄疾患の治療法の進歩 脊椎・脊髄疾患に対する集学的治療 集学的痛みセンター	整形・災害外科 2017;60(5):681-6.	Review
30	井上真輔	痛みセンター	【脊椎脊髄疾患に関連する痛みのメカニズム】脊髄由来のしびれ・痛み	脊椎脊髄ジャーナル 2017;30(6):598-603.	Review
31	西原真理	痛みセンター	慢性疼痛の治療戦略 治療法確立を目指して 抗うつ薬	臨床整形外科 2017;52(5):484-6.	Review
32	佐藤純	痛みセンター	痛みのClinical Neuroscience 気象痛	最新医学 2017;72(6):890-2.	Review
33	下和弘	痛みセンター	【痛みに関する脳機能研究アーカイブズ】慢性腰痛の脳イメージング	ペインクリニック 2017;38(7):893-904.	Review
34	佐藤純	痛みセンター	【自律神経系の基礎科学的研究update】低温・低気圧環境曝露による自律神経応答	神経内科 2017;87(1):42-5.	Review
35	西原真理	痛みセンター	【「身体症状症および関連症群」の臨床】身体症状症、疼痛が主症状のもの(従来の疼痛性障害)	精神科治療学 2017;32(8):1009-13.	Review
36	尾張慶子	痛みセンター	【婦人科がんの予防update】慢性疼痛に関する考え方と対応 小児の痛みとHPVワクチン接種後の痛み	産婦人科の実際 2017;66(12):1657-62.	Review
37	井上真輔	痛みセンター	性ホルモンと痛みを巡って	Locomotive Pain Frontier 2017;6(2):82-5.	Review
38	岡本さゆり	学際的痛みセンター	慢性痛患者の当事者研究	Locomotive Pain Frontier 2017;6(2):86-9.	Review
39	西原真理	痛みセンター	Clinical Question Q&A形式で疑問を解決 抗うつ薬治療で躁転などの問題があればどう対処しますか?	Locomotive Pain Frontier 2017;6(2):96-7.	Others

40	水谷みゆき	痛みセンター	学際的痛みセンターにおける慢性痛患者に対する催眠療法	PAIN RESEARCH 2017;32(3):191-202.	Original Article
41	城由起子	痛みセンター	アイトラッキング分析を用いたCRPS(複合性局所疼痛症候群)患者の評価	Locomotive Pain Frontier 2017;6(2):90-4.	Review
42	牛田享宏	痛みセンター	【運動器の10年-ロコモティブシンドロームと運動器疼痛-】 痛みの分類	クリニシアン 2017;64(11-12):1032-8.	Review
43	西須大徳	痛みセンター	【慢性疼痛に対するトラマドール製剤の適切な使用方法】 運動器の慢性痛の発生机序別にみたトラマドール製剤の使用	日本医事新報 2018;4900:32-7.	Review
44	田口瑠美子、 沼波宏樹、古田ちひろ、他	呼吸器外科	術後に抗利尿ホルモン分別異常症候群(SIADH)を発症した肺腺癌の2例	日本呼吸器外科学会雑誌. 2017.05;31(4):501-5	Case report
45	中野 正吾、 藤井 公人、 高阪 絢子、 他	乳腺・内分泌外科	乳房MRI-detected lesion検出における超音波fusion技術の臨床応用と将来展望	INNERVISION 2017.07; 32(8):27-30	Original Article
46	安藤 孝人、 藤井 公人、 大澤 真奈美、 他	乳腺・内分泌外科	豊胸目的のシリコン乳房インプラント挿入中に発生した乳癌2例の検討	Oncoplastic Breast Surgery 2017.06 ;2(2):115-9	Case report
47	安藤 孝人、 伊藤 由季絵、 井戸 美来、 他	乳腺・内分泌外科	放射性ヨウ素抵抗性、進行性甲状腺乳頭癌に対して行ったソラフェニブ治療後にFT3が感度以下に低下した1例	Thyroid Cancer Explore 2017.06 ;3(1):73-5	Case report
48	福沢嘉孝、吉富 淳、妹川 史朗、他	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	内科診療のTips: Dos & Don'ts (第23回日本内科学会; 専門医部会東海支部教育セミナーまとめ・報告書)	日本内科学会雑誌 106(7) 1491-1499 2017年7月	Others
49	福沢嘉孝、静貴生	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	ナラタケと統合医療	日本統合医療学会(IMJ); 会報誌 25(1) 3-4 2017年4月	Others

50	福沢嘉孝(分担共著)	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	第8章;その他の疾患での医療技術(核酸医薬, 免疫療法, 遺伝子治療, 細胞医薬品)開発への課題:3節:生活習慣病における遺伝子検査・治療の現状と課題	先端治療技術の実用化と開発戦略(核酸医薬, 免疫療法, 遺伝子治療, 細胞医薬品) 技術情報協会 2017年4月 執筆担当:466-470頁	Others
51	6. 福富啓, 眞下永, 吉岡 茉衣子, 春田 真実, 南 高正, 下條 裕史, 大黒 伸行	眼科	シクロスポリン併用が有効であった副腎皮質ステロイド抵抗性のVogt-小柳-原田病の2症例	日本眼科学会雑誌121巻(6):480-486, 2017.06.	
52	高安正和	愛知医科大学脳神経外科	頭蓋頸椎移行部における体位の工夫	脊椎脊髄 30:985-990, 2017	Original Article
53	青山正寛	愛知医科大学脳神経外科	後頭頸椎固定術の術式・適応の変遷	脊椎脊髄 30:16-22, 2017	Original Article
54	宮地茂	愛知医科大学 脳血管内治療センター	AVMの血管内治療	Clinical Neuroscience 35(10): 1182-86, 2017	Review
55	宮地茂	愛知医科大学 脳血管内治療センター	頭頸部血管内治療の現状	ENTONI 221:37-43, 2018	Review
56	宮地茂	愛知医科大学 脳血管内治療センター	高齢者未破裂脳動脈瘤に対する血管内治療の安全性と特殊性 -Flow-diverterの有用性を踏まえて	脳卒中の外科 45: 204 - 208, 2017	Original Article
57	渡辺大輔	皮膚科	新規抗ヘルペスウイルス薬アメナメビル(アメナリーフ)をどう使うか?	Geriatric Medicine・2017/11	Original Article
58	渡辺大輔	皮膚科	【内科医が知っておくべき皮膚疾患】ワクチンによる帯状疱疹の予防	Mebio・2017/10	Case report

59	渡辺大輔	皮膚科	単純ヘルペスウイルスを用いた腫瘍溶解性ウイルス療法	Skin Cancer・2017/10	
60	渡辺大輔	皮膚科	水痘・帯状疱疹ウイルス抗原検出キットの基礎的、臨床的性能評価	新薬と臨床・2018/01	
61	渡辺大輔	皮膚科	中高年期の帯状疱疹対策としての水痘ワクチン追加接種をいかに行うか？ 発症年齢や効果持続期間から、50歳代より10年に1度の接種が望ましい	日本医事新報・2017/06	
62	大嶋雄一郎	皮膚科	腋窩多汗症のA型ボツリヌス毒素局注療法に、マイクロ注射針「パスキン®(3本針)」を使用する有用性	日本臨床皮膚科医会雑誌・2017	
63	大嶋雄一郎	皮膚科	腋窩多汗症の治療(A型ボツリヌス毒素局注療法)について	皮膚病診療・2017	
64	中島昭奈	皮膚科	フェルトリンローションが著効した幼児の疥癬の1例	皮膚科の臨床・2018/02	
65	佐藤有規奈	皮膚科	脊索腫皮膚転移の1例	皮膚科の臨床・2017/07	
66	渡辺大輔	皮膚科	【疾患別・知っておきたい皮膚科の検査とその評価法】単純疱疹・帯状疱疹	皮膚科の臨床・2017/05	
67	大嶋雄一郎	皮膚科	爪白癬に対するエフィナコナゾールの治療効果と患者アンケートによる治療満足度	皮膚科の臨床・2017/09	
68	渡辺大輔	皮膚科	【最近のトピックス2017 Clinical Dermatology 2017】皮膚科医のための臨床トピックス 水痘ワクチンによる帯状疱疹の予防	臨床皮膚科・2017/04	
69	中川紘明	総合診療科	Quiz 何を考えますか?「頭が痛いんです…」.	プライマリ・ケア.2018.03;3(1): 53	Others

70	中川紘明	総合診療科	何を考えますか? 熱が出て、体にぶつぶつが出てきたんです….	プライマリ・ケア.2017.12; 2(4):55	Others
71	中川紘明	総合診療科	Quiz 何を考えますか? 食物がつかえるんです….	プライマリ・ケア.2017.09; 2(3): 67	Others
72	中川紘明	総合診療科	Quiz 何を考えますか? 「手足がむくんで痛いんです…」と30歳女性が.	プライマリ・ケア.2017.06; 2(2):58	Others
73	中川紘明	総合診療科	上級医の診断プロセスから学ぶ、エラーへの対策と診療の心構え 落とし穴にハマらない! プライマリ・ケア診療での診断エラー回避術 右下腹部痛で紹介受診した78歳女性.	日本医事新報.2017.04; 4850:46-50	Others
74	中川紘明	総合診療科	上級医の診断プロセスから学ぶ、エラーへの対策と診療の心構え 落とし穴にハマらない!プライマリ・ケア診療での診断エラー回避術 胸焼けで受診した60歳男性.	日本医事新報.2017.04; 4849:52-55	Others
75	篠邊龍二郎、 塩見利明	睡眠科	脳血管障害	最新医学 :別冊睡眠時無呼吸症候群 2017:252-258	Review
76	篠邊龍二郎	睡眠科	睡眠時無呼吸症候群	Advances in Aging and Health Research 2016, 2017:121-129	Review
77	篠邊龍二郎、 眞野まみこ	睡眠科	睡眠時随伴症の最新の知見	別冊・医学のあゆみ 睡眠障害診察29のエッセンス 2017: 127-131	Review
78	塩見 利明, 佐藤 雅子, 篠邊 龍二郎 ほか	睡眠科	スノーラー自己テストの有用性	睡眠医療 2017;11(2): 245-248.	Original Article
79	小西倫之、長谷田陽子、須田真衣子ほか	睡眠科	不登校の学生に対するサーカディアンリズムと在宅光療法の有効性について	不眠研究 2017; 2017: 27-30.	Original Article
80	篠邊龍二郎	睡眠科	高齢者の睡眠呼吸障害	Pharma Medica 2017; 35: 19-22.	Others
81	篠邊龍二郎、 小西倫之、塩見利明	睡眠科	睡眠障害と腎障害:CPAPの効果	腎と透析 2017; 82: 817-821.	Others
82	篠邊龍二郎、 塩見利明	睡眠科	脳血管障害と睡眠呼吸障害	循環器内科 2017; 82: 456-459.	Others



83	野村敦彦	睡眠科	昼間の眠気が強いのですが、睡眠時無呼吸の簡易検査をしても正常範囲だったんです……	内科 2017; 120: 411-413.	Others
84	伊藤理、他	呼吸器・アレルギー内科	Two cases of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis with rheumatoid arthritis.	Allergology Int 2017;66:507-509.	Case report
85	伊藤理	呼吸器・アレルギー内科	特集:呼吸器科医に役立つ最先端のメカノバイオロジー研究 1) 総論:呼吸器メカノバイオロジーの概説.	呼吸臨床 2017;1:e00017.	Review
86	伊藤理	呼吸器・アレルギー内科	特集:呼吸器科医に役立つ最先端のメカノバイオロジー研究 2) 各論:気道肺のリモデリングと線維化のメカノバイオロジー.	呼吸臨床 2017;1:e00022.	Review
87	森直治	緩和ケアセンター	高齢者におけるフレイルとサルコペニアを理解する	老年歯科医学 32(3) 311-316 2017年12月	Review
88	前田圭介	緩和ケアセンター	摂食嚥下障害に対する頸部電気刺激療法	臨床栄養 132(3) 260-261 2018年3月	Review
89	前田圭介	緩和ケアセンター	被災した高齢者に対する避難所での言語聴覚士の活動	保健の科学 60(2) 135-140 2018年2月	Review
90	前田圭介	緩和ケアセンター	歯科医が知っておきたい低栄養の診かたとその対応	老年歯科医学 32(3) 317-322 2017年12月	Review
91	前田圭介	緩和ケアセンター	リハビリテーション栄養と診断推論	リハビリテーション栄養 1(1) 30-34 2017年11月	Review
92	前田圭介	緩和ケアセンター	誤嚥性肺炎の急性期に禁食治療は必要でしょうか?	Geriatric Medicine 55(11) 1239-1241 2017年11月	Review
93	前田圭介	緩和ケアセンター	多職種で取り組む災害時の食支援 フレイル高齢者には早期に多面的食支援を	地域保健 48(6) 34-37 2017年11月	Review
94	前田圭介	緩和ケアセンター	仕方なくない!院内誤嚥性肺炎(院内誤嚥性肺炎の「診断」と「治療」の進み方	Expert Nurse 33(12) 36-37 2017年9月	Review

95	前田圭介	緩和ケアセンター	仕方なくない!院内誤嚥性肺炎 PART2 誤嚥性肺炎のエビデンスに基づく治療・ケア 1“誤嚥性肺炎だから禁食は仕方ない”...ではない!禁食がもたらす危機	Expert Nurse 33(12) 38-41 2017年9月	Review
~					

計95件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容  倫理審査業務手順書（委員向け）  →総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長等の責務，倫理委員会の役割・責務等，専門 委員会の役割・責務等  倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け）  →基本的事項，研究者等の責務，研究の実施，インフォームド・コンセント等，個人情報 等及び匿名加工情報，重篤な有害事象への対応，研究の信頼性確保	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容  1 利益相反委員会規程：利益相反を審査し、適切に管理・検討するために必要な事項  2 利益相反規程：利益相反の管理に関し必要な事項	
③ 利益相反を審査し、適切な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>2017年6月7日</p> <p>【B講習】</p> <p>「倫理指針の改正に伴う倫理審査申請手続きの変更及び研究責任者向けインフォームド・コンセント等の手続きの見直しチェックリストの提出について」</p> <p>講師：山口悦郎教授（医学部倫理委員会委員長）</p> <p>2018年2月14日</p> <p>【A講習】</p> <p>「医学系研究における倫理について」</p> <p>講師：岐阜大学大学院医学研究科 塚田敬義教授</p> <p>【B講習】</p> <p>「本学の倫理審査の要点と臨床研究法への対応について」</p> <p>講師：山口悦郎医学部倫理委員長</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース 循環器専門医養成コース 呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース 内分泌・代謝・糖尿病専門医コース 神経内科専門医養成コース 腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース 血液学専門医養成コース 総合診療科全人的診療医養成コース リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース 睡眠医療認定医取得コース 集中的脳卒中診療研修コース 輸血・細胞治療学認定医養成コース 病理・細胞診専門医コース 感染症専門医/インфекションコントロール・ドクター養成コース 精神科学専門医養成コース 小児科学専門医養成コース 皮膚科専門医取得コース 放射線科専門医取得コース・放射線科治療専門医取得コース 日本外科学会専門医取得コース 消化器外科学専門医養成コース 心臓外科学専門医養成コース 血管外科専門医養成コース 呼吸器外科学専門医養成コース 乳腺専門医養成コース 脳神経外科専門医養成コース 整形外科専門医養成コース 泌尿器科専門医養成コース 産婦人科卒後6年間コース 形成外科学専門医養成コース 眼科専門医取得コース 耳鼻咽喉科専門医養成コース リハビリテーション専門医取得コース 救命救急科専門医コース 麻酔専門医養成コース 日本ペインクリニック専門医取得コース 口腔外科専修医取得コース

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	193人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	33 年	消化管内科
米田政志	内科	教授	35 年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	29 年	循環器内科
山口悦郎	内科	教授	39 年	呼吸器・アレルギー内科
道勇 学	内科	教授	33 年	神経内科, 脳卒中センター
伊藤恭彦	内科	教授	36 年	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	27 年	血液内科
中村二郎	内科	教授	37 年	糖尿病内科, 糖尿病センター
兼本浩祐	精神科, 神経科	教授	35 年	精神神経科, こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	29 年	小児科

佐野 力	外科	教授	32 年	消化器外科
松山克彦	心臓血管外科	教授	27 年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	36 年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	37 年	呼吸科外科
中野正吾	外科	教授	27 年	乳腺・内分泌外科
小林孝彰	外科	教授	33 年	腎移植外科
高安正和	脳神経外科	教授	40 年	脳神経外科, 脊椎脊髄センター
出家正隆	整形外科	教授	30 年	整形外科
渡邊大輔	皮膚科	教授	25 年	皮膚科
住友 誠	泌尿器科	教授	27 年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	34 年	産科・婦人科, 周産期母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	30 年	眼科
植田広海	耳鼻咽喉科	教授	39 年	耳鼻咽喉科
鈴木耕次郎	放射線科	教授	31 年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	33 年	麻酔科
前川正人	内科	教授	40 年	総合診療科, プライマリケアセンター
横尾和久	形成外科	教授	38 年	形成外科
武山直志	救急科	教授	36 年	救命救急科, 救命救急センター
木村伸也	リハビリテーション科	教授	40 年	リハビリテーション科, リハビリテーション部
塩見利明	内科	教授	29 年	睡眠科
三嶋廣繁	内科	教授	29 年	感染症科, 感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	34 年	病理診断科
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	34 年	歯科口腔外科
加藤栄史	内科	教授	27 年	輸血部, 細胞治療センター

牛田享宏	整形外科	教授	24 年	痛みセンター
山田恭聖	小児科	教授	34 年	周産期母子医療センター
三嶋秀行	外科	教授	31 年	臨床腫瘍センター, 臨床研究支援センター
久保昭仁	内科	教授	33 年	臨床腫瘍センター
三原英嗣	内科	教授	30 年	臨床腫瘍センター
森 直治	外科	教授	29 年	緩和ケアセンター
畠山 登	麻酔科	教授	29 年	周術期集中治療部
福沢嘉孝	内科	教授	34 年	先制・統合医療包括センター
宮地 茂	脳神経外科	教授	35 年	脳血管内治療センター

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 深津 博	
管理担当者氏名	医事課 竹崎武 高橋功 病院管理課 市川光生 地域医療連携課 中條孝弘 医療情報管理課 長江二三子 薬剤部 斎藤寛子 医療安全管理室 高安正和 感染管理室 三嶋廣繁 臨床工学部 天野哲也	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	外来カルテ・入院カルテともに電子カルテとなっている。 病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。 診療録の院外持出しは認めていない。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	医療情報管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 小寺努		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 市川光生		
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
申し出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理のための基本的な考え方</li> <li>2. 医療安全管理責任者の設置</li> <li>3. 安全管理の体制確保のための委員会</li> <li>4. 医療安全管理室の設置</li> <li>5. 医療安全管理者の設置</li> <li>6. セーフティマネージャーの設置</li> <li>7. 患者相談窓口の設置</li> <li>8. 医薬品安全管理責任者等の設置</li> <li>9. 医療機器安全管理責任者等の設置</li> <li>10. 医療事故発生時の対応方法等</li> <li>11. 安全管理のための職員研修</li> <li>12. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供</li> <li>13. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> </ol> </li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（☑・無）</li> <li>・ 開催状況：年 12 回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。</li> <li>2. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</li> <li>3. 2の分析の結果をかつようした医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</li> <li>4. 3の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。</li> <li>5. 入院患者死亡例、特異事例の報告状況の確認に関すること。</li> <li>6. 5の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること。</li> <li>7. 医療の安全管理の情報交換に関すること。</li> <li>8. 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。</li> <li>9. その他医療安全管理に関すること。</li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 42 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全講演会 (2回)</li> <li>2. 医薬品・医療機器安全講演会 (1回)</li> <li>3. AEDを使用した心肺蘇生法 (8回)</li> <li>4. エコーを使用したCVカテーテル挿入法 (3回)</li> <li>5. PICC研修 (1回)</li> <li>6. 医療安全アカデミー (14回)</li> <li>7. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」(1回)</li> <li>8. 新規採用医師ガイダンス (1回) (指針・マニュアル等の研修)</li> <li>9. 中途採用医師ガイダンス (9回) (指針・マニュアル等の研修)</li> <li>10. 新規採用職員ガイダンス (1回) (指針・マニュアル等の研修)</li> <li>11. 新規採用看護師ガイダンス (1回) (指針・マニュアル等の研修)</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（☑・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全管理マニュアルの改正</li> <li>医療安全に関する再発防止策等の報告書提出と実施の確認</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>院内感染のための委員会。その他の当該病院などの組織に関する基本方針</li> <li>院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>感染の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>その他の当該病院等における院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回第2火曜日に定例開催し、次に掲げる事項の審議を実施</li> <li>感染予防対策の確立に関すること。</li> <li>感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>感染予防の教育に関すること。</li> <li>感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること。</li> <li>その他感染予防に関すること。</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年21回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：           <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・ディベロップメント講座（年7回）</li> <li>院外講師による感染予防に関する講演会（年3回）</li> <li>愛知県実践感染症カンファランス（年6回）</li> <li>新規採用者ガイダンス（年1回）</li> <li>研修医オリエンテーション（年1回）</li> <li>新規採用看護師オリエンテーション（年1回）</li> <li>清掃委託業者への研修（年1回）</li> <li>看護補助員委託業者への研修（年1回）</li> </ul> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>I C Tによるラウンドの実施</li> <li>リンクナースによる感染対策推進活動の実施</li> <li>S S I サーベイランスの実施</li> <li>I C U サーベイランスの実施</li> <li>B S I サーベイランスの実施</li> <li>全病院サーベイランスの実施</li> <li>耐性菌サーベイランスの実施</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p style="margin-left: 40px;">①麻薬の取り扱いについて、                  ②抗がん剤について                  ③インシデント事例から薬剤の適正処方について考える                  ④妊産婦の薬剤投与</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>手順書の内訳に基づく業務の主な内容：①医薬品の採用と購入に関する事項②医薬品の管理に関する事項③医薬品の投薬指示から調剤に関する事項④患者に対する与薬および服薬指導に関する事項⑤医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関する事項⑥在宅患者への医薬品使用に関する事項⑦他施設との連携に関する事項⑧医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修の実施⑨未承認新規医薬品等の適正使用に関する事項</p> <p>実施状況 医薬品の安全使用のための業務手順書のチェックシートを用いて月1回確認している。また、⑦の他施設との連携は、地域連携ネットワークを構築し医薬品の適正情報等を提供して適正使用に努めている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p style="margin-left: 40px;">カルシフィラキシスによる下腿皮膚潰瘍に対するデトキソール注射液の使用</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p style="margin-left: 40px;">入退院支援センターに薬剤師を常駐し手術前・検査前中止薬の確認と患者への説明、中止薬の再開の時期の主治医との調整 (院内キラリヒヤリハット賞受賞)</p> <p style="margin-left: 40px;">外来における内服抗がん剤使用患者への文書と説明による指導</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：取扱い説明及び注意喚起</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">例年4月に、新入職員に対するオリエンテーションの際、臨床工学部技士による人工呼吸器、輸液ポンプ等の機器について臨床工学部資料ならびに、メーカーマニュアルに基づき、実機を用いて取扱説明及び注意喚起を行っている。</p> <p style="margin-left: 40px;">今年10月には、外部メーカー講師にて除細動器等の機器説明会を行った。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">例年3月に策定されており、それに沿って保守管理が行われている。各々点検校正器及び治具などを用いメーカー推奨値を照らし合わせ点検を行う。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">医療機器を安全に使用するために、各機器に注意喚起のメーカーラベルなどを貼付する。</p> <p style="margin-left: 40px;">また、簡易マニュアル等も整備し、定期的に臨床工学部技士により勉強会などを行い情報共有に務める。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>・医療安全管理責任者は、医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。</p> <p>・医療安全管理室員、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し、院内の医療安全に関する情報の収集、改善方策の検討、指示等を行っている。</p> <p>・医療安全管理委員会の委員長となっている。</p> <p>・医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（22名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○医薬品安全使用のための手順書による業務チェックを月1回実施</li> <li>○採用医薬品の副作用等情報の全職員への周知</li> <li>○医薬品安全使用のための研修会の実施</li> </ul> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未承認新規医薬品等使用申請の内容確認、評価委員会への審議依頼、使用の適否等の決定、申請資料・調査資料等の保管</li> <li>○申請医薬品使用患者のカルテ・順守状況等の確認、使用成績報告書の確認</li> <li>○上記内容につき院長への報告書を適宜作成、月間報告書の作成</li> </ul> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師 医薬品安全管理責任者 斎藤寛子）</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師 深谷さおり）（所属：薬剤部，職種 薬剤師 黒瀬優輔）</p> <p>（所属：痛みセンター，職種 医師 牛田亨宏）（所属：皮膚科，職種 医師 渡辺大輔）</p> <p>（所属：臨床工学部，職種 臨床工学士 辻晶）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 各科診療録監査者が電子カルテに署名のある同意書がスキャンに取り込みされているか、同意取得の概略が診療録に記載されているかの確認を行い、記載がなければ主治医・担当医に指導を行う。 インフォームド・コンセント推進委員会を開催し、説明・同意文書の確認、IC 診療録記載の検証を行い、不適切事例には指導を行う。 :</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</p> <p>記載不備に対する項目を主治医に通知し、追記および訂正を依頼する。</p> <p>毎週月曜日に、各診療科全体の記載不備事項を各診療科部長および医局長に通知する。</p> <p>サマリー完成率を部長会および医局長会で通知ならびに記載遅滞医師を公表する。</p> <p>診療録管理委員会を開催する。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（8）名、専任（3）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。</li> <li>2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。</li> <li>3. 医療事故発生時の対応に関すること。</li> <li>4. 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握。</li> <li>5. 職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認。</li> <li>6. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。</li> <li>7. 医療安全管理に関する院内の連絡調整</li> <li>8. その他医療安全管理に関する業務</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>・医師、薬剤師、看護師は専従を置いている。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p> <p>・中心静脈カテーテル挿入時には「中心静脈カテーテル挿入時のチェック項目表」を記載し、医療安全管理室に提出後、電子カルテにスキャンして保存する。合併症等が発生した場合は「中心カテーテル挿入に関する合併症報告」を記載し、医療安全管理室に提出する。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（1件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

提供が適当であると通知を受けた高難度新規医療技術に対し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、その都度診療録等の記載内容を確認、適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、職員の遵守状況を確認する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（24件）、及び許可件数（24件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

○未承認新規医薬品等使用申請の内容確認、評価委員会への審議依頼、使用の適否等の決定、申請資料・調査資料等の保管

○申請医薬品使用患者のカルテ・順守状況等の確認、使用成績報告書の確認

○上記内容につき院長への報告書を適宜作成、月間報告書の作成

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 506 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 68 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ① 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること。
- ② 入院患者の死亡例、特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
- ③ ②の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること。
- ④ 医療の安全管理の情報交換に関すること。
- ⑤ 医療の安全管理のための教育・研修に関すること。
- ⑥ その他医療の安全管理に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：近畿大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：近畿大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
  1. チーム医療の導入プログラムの検討  
セーフティマネージャーによる病院内に山積する検討すべき内容（転倒転落，チューブトラブル等）ごとの部会活動の推進を検討。
  2. インシデント報告を分析し原因究明をするSafety1の概念ではなく，報告数を増加させ個別の考え方を共有することで成功する能力を伸ばすことに注力するSafety2の概念を浸透させ対応する必要がある。  
0レベルのインシデント報告を推進し，事故を未然に防ぐことができた事例を取り上げ会議等で紹介することを検討。
  3. 機器購入の際の連携体制の構築  
機器申請の段階から事務部門と機器管理部門を連携させ，メンテナンス，機器管理及び研修の実施を行い易くする。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
  - ①患者相談窓口を病院玄関ホールに設置している。
  - ②担当者は，看護師，薬剤師，社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。
  - ③責任者は，医療安全管理担当の副院長としている。
  - ④対応時間は，平日8時30分から，17時15分としている。
  - ⑤患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに，関係部署に対しても報告し速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。
  - ⑥担当者及び関係者の守秘義務についても医療安全管理マニュアルに明記している。  
（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱 に明記）
  - ⑦患者相談窓口があることについて，院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
  - 医療安全管理に係る職員研修実施要領において，次の事項を定めている。
    - ・インシデント報告，アクシデント報告等の流れ，医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項
    - ・インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項
    - ・診療録管理規程の遵守状況に関する事項
    - ・職員の安全意識の状況に関する事項
    - ・医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項
    - ・高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
    - ・未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
    - ・外部監査委員会からの意見に関する事項
    - ・全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
    - ・私立大学病院相互ラウンドに関する事項
    - ・患者相談に関する事項
    - ・医療安全通報窓口の使用方法に関する事項
    - ・医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項
  - 開催頻度は年に2回程度で，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行う。
  - 医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については，DVD鑑賞，e-learning等を活用して，全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成30年度に予定しているため実施無し

医療安全管理責任者：一般社団法人全国医学部長病院長会議主催、医療事故の調査などに関するシンポジウム受講

医薬品安全管理責任者：国際医療リスクマネジメント学会主催、医薬品安全管理研修会2017年秋季受講

医療機器安全管理責任者：国際医療リスクマネジメント学会主催、医療安全基礎講座2017受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 臨床医学部門の教授(大学附属施設, 医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。)であること。</li> <li>(2) 医療安全管理業務の経験, 患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。</li> <li>(3) 医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること。</li> <li>(4) 病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること。</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 病院のホームページにて公表する。</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有・無 )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input checked="" type="checkbox"/>
<p>・ 合議体の主要な審議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一 病院の運営方針に関する事。</li> <li>二 病院の中期計画に関する事。</li> <li>三 病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関する事。</li> <li>四 各種の委員会の設置及び改廃に関する事。</li> <li>五 病院の予算及び決算に関する事。</li> <li>六 病院職員の人事に関する事。ただし、病院事務職員は除く。</li> <li>七 病室及び病床等の運用に関する事。</li> <li>八 医学部学生、看護学生等の臨床実習に関する事。</li> <li>九 臨床研修医の研修に関する事。</li> <li>十 その他病院の運営に関する重要事項</li> </ul> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局長会、看護師長会、業務連絡会等で周知</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>・ 公表の方法</p> <p style="padding-left: 40px;">（調整中）</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有 <input type="checkbox"/> ・ 無 <input checked="" type="checkbox"/>）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職 (病院長・副院長・部長)
羽生田正行	○	医師	病院長
高安正和		医師	副院長
中村二郎		医師	副院長
武山直志		医師	副院長
春日井邦夫		医師	副院長
道勇学		医師	副院長
藤原祥裕		医師	副院長
出家正隆		医師	副院長

井上里恵		看護師	副院長
馬場研二		医師	メイICALクリニック
米田政志		医師	肝胆膵内科
天野哲也		医師	循環器内科
山口悦郎		医師	呼吸器・アレルギー内科
伊藤恭彦		医師	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良		医師	血液内科
兼本浩祐		医師	精神神経科
奥村彰久		医師	小児科
佐野力		医師	消化器外科
松山克彦		医師	心臓外科
石橋宏之		医師	血管外科
中野正吾		医師	乳腺・内分泌外科
小林孝彰		医師	腎移植外科
渡辺大輔		医師	皮膚科
住友 誠		医師	泌尿器科
若槻明彦		医師	産科・婦人科
瓶井資弘		医師	眼科
柿崎裕彦		医師	眼形成・眼窩・涙道外科
植田広海		医師	耳鼻咽喉科
鈴木耕次郎		医師	放射線科
前川正人		医師	総合診療科
横尾和久		医師	形成外科
木村伸也		医師	リハビリテーション科
塩見利明		医師	睡眠科
三嶋廣繁		医師	感染症科
風岡宜暁		医師	歯科口腔外科
中山享之		医師	中央臨床検査部
都築豊徳		医師	病院病理部
加納秀記		医師	救急診療部
加藤栄史		医師	輸血部
牛田享宏		医師	痛みセンター
山田恭聖		医師	周産期母子医療センター
三嶋秀行		医師	臨床腫瘍センター
久保昭仁		医師	臨床腫瘍センター
三原英嗣		医師	臨床腫瘍センター
森直治		医師	緩和ケアセンター
畠山登		医師	周術期集中治療部
福沢嘉孝		医師	先制・統合医療包括センター
宮地茂		医師	脳血管内治療センター
深津博		医師	医療情報部
斎藤寛子		薬剤師	薬剤部
小寺努		事務職員	病院事務部
中條孝弘		事務職員	医事管理部



規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
  
- ・ 規程の主な内容
  - (1) 「事務決裁規程」等において、病院長の人事権限等を明確化している。
  - (2) 「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において、病院長の予算執行権限を明確化している。
  
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - 副院長8名を置いている。
  
  - 病院長の職務を補佐する副院長の役割
    - 一 病院の経営企画に関すること。
    - 二 医療安全管理・院内感染対策に関すること。
    - 三 地域医療連携に関すること。
    - 四 卒後臨床研修・専門医制度に関すること。
    - 五 病院の広報に関すること。
    - 六 救急医療・災害医療に関すること。
    - 七 医療情報の管理・運用に関すること。
    - 八 チーム医療に関すること。
    - 九 看護に関すること。
    - 十 その他病院長が必要と認めた業務
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 

病院の管理経営に精通する人材を育成するために、「平成30年度病院経営人材育成研修計画」を平成30年7月23日常任理事会に於いて方針を決定し、病院マネジメント育成に向けて推進している。

【研修計画】

実施時期	SD名	対象者
調整中	院長・副院長のためのトップマネジメント研修	病院長・副院長
調整中	病院長・幹部セミナー	病院事務部長 医事管理部長
調整中	病院中堅職員育成研修 (医事管理コース) (薬剤部門管理コース) (医療技術部管理コース)	事務職員
H30.10.1	「MBA的医療経営」に学ぶマネジメント イグゼクティブ育成研修	全職種
調整中	医療経営士資格取得支援	事務職員

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>    第1回 愛知医科大学病院外部監査委員会 平成29年6月10日（土）開催         平成28年度の医療安全の活動報告</p> <p>    第2回 愛知医科大学病院外部監査委員会 平成30年1月15日（月）開催         平成29年度上半期（平成29年4月から9月）の医療安全の活動報告</p> <p>    各委員会では病院側が活動報告を行い、それに対して各委員との質疑応答が行われた。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>    ホームページにて公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聰	愛知学院大学	○	1	有・無	1
黒江幸四郎	瀬戸旭医師会		1	有・無	1
吉田一平	長久手市長		2	有・無	2
佐藤啓二	愛知医科大学		3	有・無	3
岡田尚志郎	愛知医科大学		3	有・無	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

専門部署として、監査室が設置されており、特定機能病院の管理者としての病院長の業務が法令に適合することを確保するために必要な監査に関することを所掌している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  )
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                      病院の管理運営状況の監督については、病院の開設者である理事長を含む常任理事会が、定期的に報告される病院運営状況について検討を行い、必要に応じて理事会に報告することで行っている。</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年51回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年50回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 職員用ホームページにて公表している。</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：公益財団法人日本医療機能評価機構 時 期：平成17年10月17日認定 平成22年12月3日認定 平成27年10月17日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：リーフレットの配布・掲示 ホームページ 病院広報誌など 内容：当院の医療連携上の役割 前方・後方連携への協力要請など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・ 外来において、循環器内科と心臓外科・血管外科、消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し、共同診療に配慮している。 ・ 診療科間で依頼箋により情報交換し、専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては、共同カンファレンスを行って診療を行っている。 ・ 疾患の必要に応じて、複数の診療科による共同の手術を行っている。 ・ 救命救急センターにおいて、救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い、連携して診療に当たっている。	